

新規就農
希望者向け

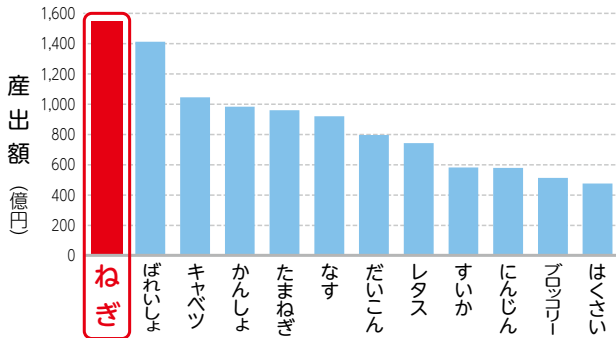
白ねぎ栽培

はじめませんか？

1 白ねぎ栽培のメリット

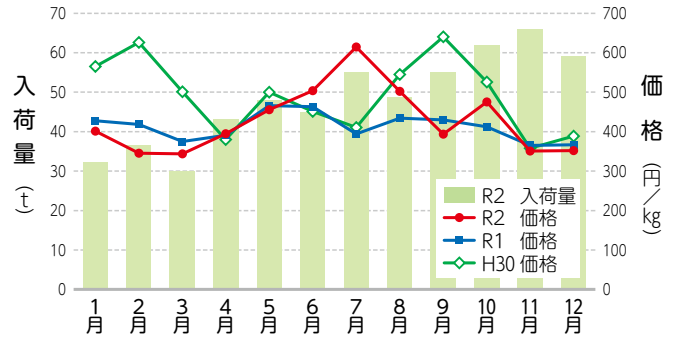
① 需要や販路が多く、価格が安定

• 需要が多く、露地野菜の中で産出額が最も多い。



(農林水産省：R2生産農業所得統計を基に作成)

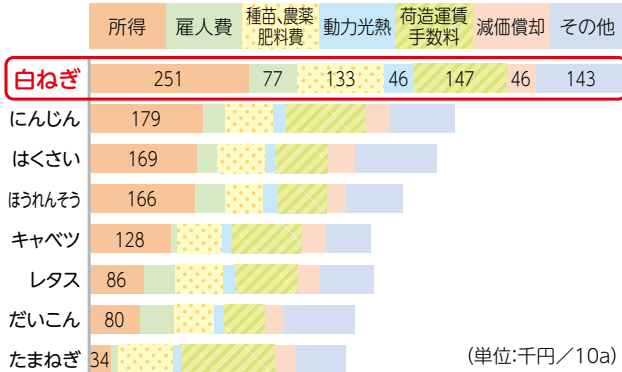
• 市場価格は年間を通じて比較的高く、安定している。



(富山市場年報)

② 小さな面積でも大きな所得

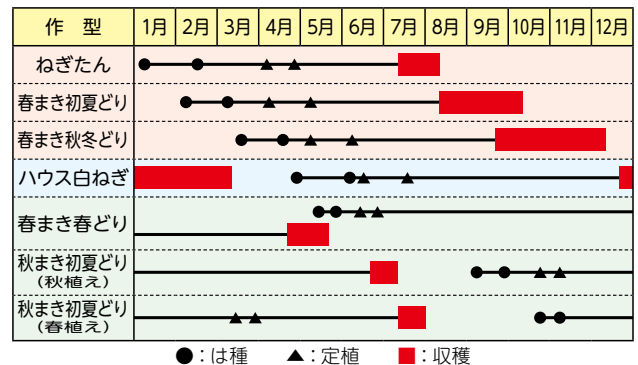
• 露地野菜の中では面積当たりの所得が最も高く、小面積でもある程度の所得を確保できる。



(農林水産省：R2営農類型別経営統計より)

④ 周年栽培で労力を有効活用できる

• 白ねぎには複数の作型があり、それらを組み合わせることで、ほぼ周年的に出荷することができるので、労力の有効活用と収入機会の増加につながる。



③ 規模に応じた機械化栽培体系

• 白ねぎ栽培の全作業（は種、植え溝掘り、定植、土寄せ、防除、収穫、調製）で、栽培規模に応じた機械が開発・販売されている。



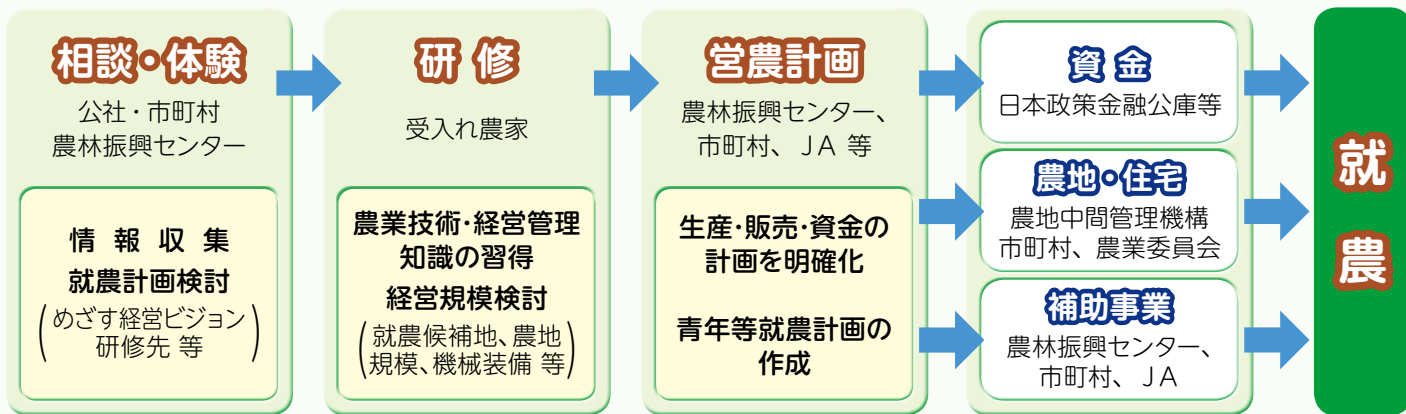
⑤ 「富山しろねぎ」ブランドが確立

• 県内統一規格でブランド化され、販路が確立されている。
• 各自で新たな出荷資材の作成は不要。



2 就農までの道のり

(参考) とやま就農ナビ <https://taff.or.jp/nou/syunou-navi/>



3 栽培の流れとポイント

は種・育苗

定植方法の違いによりチェーンポット育苗とセル育苗があります。

- 補植ができないので、欠株がなく、そろった苗作りがポイント

定植

根鉢が乾燥しないよう、また根元が曲がらないように定植します。



- なるべく手直しが不要となるよう、事前に機械・機器の設定・調整を実施する
- 排水対策のため、定植後に植え溝と額縁排水溝を連結する

削り込み 土寄せ

軟白長の確保、雑草対策等のため、1作当たり4～5回の土寄せを行います。



- 土のかけ過ぎは生育停滞につながるため、丁寧に作業する
- 作業間隔が空くと雑草が繁茂するなどの影響がでるため、定期的な作業を実施する
- 栽培面積に応じた機械装備(能力)を用意する
- 土寄せ時に粒剤を施用して病害虫防除を行う

防除

強風前後や病害発生時には、速やかに液剤を散布します。

収穫

葉折れや土汚れがないよう、丁寧に収穫します。



- 調製作業と同日の作業となることから、少人数、短時間での作業になりやすいので、機械化や労力確保を検討する
- 土壌条件によっては機械の作業性能が十分に発揮できないことがあるので注意

調製・出荷

根・葉切り、皮むき、選別、結束、箱詰めを行います。



- 白ねぎ栽培全体の作業時間の6割程度が調製作業となるため、調製は目標とする作業時間に収まるよう、効率的に行うことが極めて重要
- 機械装備と合わせて、人の配置や手順など作業体系をしっかりと決めることが大切

4 白ねぎ導入時のチェックポイント

資金

生産規模や装備する機械の種類、補助事業活用の有無によって必要な資金は大きく異なります。あらかじめ目標とする規模をしっかりと決め、規模に応じた装備を決める必要があります。

栽培技術

実践的な技術を身につけるため、県内外の白ねぎ生産者から、長期(6~12か月)研修を受けることも可能です(※事前の調整が必要)。
研修先としては、経営規模、機械装備等が、自身の目標と近い経営体がおすすです。

農地

農地中間管理機構を通じて農地を借りることができます。
連作障害を避けるため輪作(3年を目安)を考慮すると、栽培面積の3倍の農地を確保する必要があります。

労力

栽培面積により異なりますが、調製作業では作業員の雇用が必要となります。いつ、何人の作業員を準備できるか考えましょう(下表参照)。

必要な機械 (下表参照)

栽培規模に応じた必要な機械装備の目安

		中小規模経営体					大規模経営体	
調製作業者数		1~2人	2人	3~4人	4~5人	5~6人	6~7人	6~7人
経営目標	作付面積	30 a	60 a	1 ha	1.5 ha	2 ha	2.5 ha	3 ha
	目標日出荷量	50箱/日	50箱/日	100箱/日	140箱/日	190箱/日	240箱/日	280箱/日
	販売金額	2,900千円	5,800千円	8,600千円	13,000千円	17,300千円	21,600千円	25,900千円
機械化体系(例)	定植	簡易定植器 ×1台			全自動定植機 ×1台			
	土寄せ	管理機		小型乗用管理機 ×1台			ハイクリアランス乗用管理機 ×1台	
	収穫				自動収穫機 ×1台		全自動収穫機 ×1台	
	調製(根葉切り皮むき)	調製機セット ×1セット	調製機セット ×1セット	調製機セット ×2セット	根葉切り皮むき機 ×1台	根葉切り皮むき機 ×1台 調製機セット ×1セット	根葉切り皮むき機 ×1台 調製機セット ×2セット	根葉切り皮むき機 ×2台
	結束	半自動結束機 ×1台	半自動結束機 ×1台	半自動結束機 ×2台	半自動結束機 ×2台	全自動結束機 ×1台	全自動結束機 ×1台	全自動結束機 ×1台

経営規模の決定に当たって考えなければならないこと!

大規模に作付けすると大きな売上を得ることができますが、経費(機械、労賃)、労務管理の重要度、気象災害などのリスクも大きくなります。

目標とする所得を得るために、経営計画を立ててください。

どれくらいの面積が必要か?

どの程度の機械装備が必要か?

そのための資金は確保できるのか?

作業員はいつの時期に何人必要で、しっかり確保できるか?



5 経営モデル

●: は種 ▲: 定植 ■: 収穫

① 慣行モデル

1ha規模

売上 800万円
所得 300万円

《条件》労働力: 夫婦2人+調制作業時のみ1人雇用

出荷期間 8~11月 (4か月間)

機械装備: 簡易定植器、小型乗用管理機、調製機セット2基、半自動結束機2台

区分		金額	(10a当たり)	積算内訳 (10a当たり)
粗収入	売上高	8,640千円	864千円	出荷量: 2,400kg 単価: 360円/kg ※多くの地域では、産地交付金が支払われます。
	補助金			
収入合計 (A)		8,640千円	864千円	
経営費	原材料費	2,239千円	224千円	種苗費、肥料費、農薬費
	販売費、その他	2,342千円	234千円	販売費、機械修繕費等
	減価償却費	364千円	36千円	白ねぎ用機械のみ (補助事業の活用を想定)
	雇用労賃	640千円	64千円	時給1,000円で64時間を雇用
経営費合計 (B)		5,585千円	558千円	
所得 (A-B)		3,055千円	306千円	
賃金換算した時間当たり報酬			1,203円	全作業時間318時間中、自己労働時間254時間



② 周年生産モデル

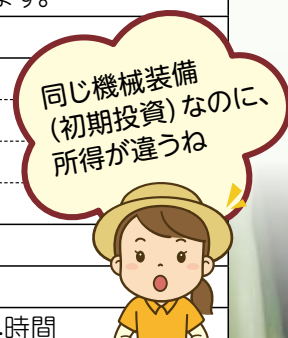
1.5ha規模

売上 1,300万円
所得 450万円

《条件》労働力、機械装備はモデル①と同じ

出荷期間 4月、7~11月 (6か月間)

区分		金額	(10a当たり)	積算内訳 (10a当たり)
粗収入	売上高	12,960千円	864千円	出荷量: 2,400kg 単価: 360円/kg ※多くの地域では、産地交付金が支払われます。
	補助金			
収入合計 (A)		12,960千円	864千円	
経営費	原材料費	3,358千円	224千円	種苗費、肥料費、農薬費
	販売費、その他	3,513千円	234千円	販売費、機械修繕費等
	減価償却費	364千円	24千円	白ねぎ用機械のみ (補助事業の活用を想定)
	雇用労賃	960千円	64千円	時給1,000円で64時間を雇用
経営費合計 (B)		8,195千円	546千円	
所得 (A-B)		4,765千円	318千円	
賃金換算した時間当たり報酬			1,251円	全作業時間318時間中、自己労働時間254時間



問い合わせ先

富山県農業技術課広域普及指導センター

富山市吉岡1124-1

電話 076-429-5041

新川農林振興センター 黒部庁舎

黒部市萩生3200

電話 0765-52-5192

富山農林振興センター 諏訪川原庁舎

富山市諏訪川原1-3-22

電話 076-444-4523

高岡農林振興センター

高岡市赤祖父211

電話 0766-26-8476

砺波農林振興センター

砺波市幸町1-7

電話 0763-32-8112